

# 地域の課題を探求、提言

玉野高3年生が地域のさまざまな課題と向き合った探求活動の実践発表会が9日、同高で行われた。3年生約140人が24グループに分かれて環境問題や観光施策などについて発表した。(矢吹喜一朗)

## 玉野高3年生が実践発表会



「宇野活性化計画」がテーマのグループは、造船業が盛んだったところに比べて、瀬戸大橋の開通などにより徐々に宇野周辺も衰退していると現状を分析。宇野周辺に人を呼び込む方法として、船上水族館を宇野港周辺で展

地域への提言を意識し、環境問題や観光施策などを発表する玉野高の生徒

開する案や、直島で日本中のダンサーを集めたダンス大会を開いて集まる若者に立ち寄ってもらう案を挙げた。

「玉野の海ゴミ」と題して発表したグループは、日の出・高辺・水の浦・渋川の4カ所で漂着物を現地調査。一番多か

## 宇野活性化や海ごみ調査

ったのは発泡スチロールで、全体の65%がプラスチック類だったことも紹介。ごみを減らすためのボランティア活動に参加し、SNSで呼びかけを行うことを提言した。

同グループの藤原海都さん(18)は「友人と行った海水浴で、海岸に流れていた海ごみを見て、どうにかしなければと考えた。一人一人の意識が海を守り、海ごみの減少につながる」と話した。

発表会は2019年度から毎年実施。現3年生は昨年7月から、希望進路別に5、6人でグループをつくり、地域への提言を意識して探求を続けてきた。

新型コロナウイルス感染症防止のため、発表会場を体育館や柔道場など4カ所に分散。2年生はグループに分かれて参観し、1年生は録画映像を教室で視聴した。

(C) 山陽新聞社 無断複製・転載を禁じます。